

顔面成長および歯列への筋機能の影響

—健康な未来のための教育 口腔筋機能矯正 2026—



■不正咬合早期治療の研究
■筋機能矯正

■共催：株式会社オーティカ・プロモーション
株式会社オーティカ・インターナショナル
(マイオブファンクショナルリサーチ社日本総代理店)
■後援：Myofunctional Research Co. (Australia)

Dr. John Flutter BDS. London Univ. England

1971年	ロンドン大学Kings College Hospital Dental School で歯科医の資格を取得	1997年	ロンドン 4th, International Symposium on Facial Orthotropics. (自然成長誘導法)で発表
1972-77年	ロンドンで開業 歯列矯正学を実践し研究	1998年	エドモンド 5th, International Symposium on Facial Orthotropics. で発表
1984-99年	オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカで口腔顔面歯科整形外科の多くのコースに参加		オーストラリア・シドニー 第2回オーストラリア口腔顔面歯科シンポジウムで発表
1994年	ハワイで国際歯科矯正学協会のBoard Eligible Tier Levelを取得	1999年	バルセロナ 第1回国際口腔顔面歯科整形外科シンポジウムで発表
1993-95年	オーストラリア口腔顔面整形外科協会連邦会長	2002年	Sleep Health Dental Centerで、いびきや睡眠時無呼吸者の治療を開始
1995年-現在	オーストラリア口腔顔面整形外科協会クイーンズランド支部長	2006年	Orthodontic Early Treatment Centerを開設
		2010年	Myobrace® Memberに加盟

第29回 Dr. John Flutter 講習会

講師からのメッセージ

歯列矯正治療が実践された100年以上前から不正咬合の筋機能的な原因は理解されてきました。しかし、Dr. Edward Angleの時代より書かれていた呼吸パターンと筋機能の原因は見落とされ、多くの歯列矯正医が遺伝的要因に固執していました。現在においては多くの医師が、機能と呼吸を無視した歯列矯正が永続的な保持を限定していることを理解しています。

現在、世界中の多くの歯科医師が、呼吸プログラムと組み合わせた筋機能アプライアンスシステムを用いています。呼吸障害は先進国全体で大きくなりつつある小児の重要な健康問題です。この治療システムにより多くの子どもが顔貌の正しい成長、非抜歯、安定という恩恵を受けています。そのコンセプトは「機能を始めに治療し歯は最後に」です。

「上顎の拡大は歯ではなく舌のために」一旦上顎が正しい方向に拡大されれば、舌を訓練することで上顎アーチをサポートできます。

筋機能的矯正治療の成功の鍵は、両親と子どもから協力を得ることです。患者教育は固定式歯列矯正治療以上の結果を得るための重要な部分です。大きなポイントは筋機能矯正治療を子どもたちに提供することです。

子どもたち自身に問題を自覚させ、成長、発育を正しい方向に改善するための実践的な方法を紹介します。

主な講演内容

- 30年以上に渡る85カ国での講演の歴史
- Dr. Chris Farrell, Dr. John Mewとの出会い
- 各国の筋機能矯正治療の現状
- 不正咬合の原因を理解する
- 小児における鼻呼吸の確立
- Facial Growth: 成長と発育の理解
- 軟組織評価表(MOE)
- Myobrace®併用装置BWS(Bent Wire System)とBB1(Bioblock Stage1)の理解
- TrainerからMyobrace®, TLJにいたるまで
- セファロ分析の限界と問題点
- インジケーターライン、グナチオメーターについて
- 筋機能矯正治療をクリニックで確立するために
- 質疑応答

開催日時：2026年 3月19日(木) / 20日(金・祝)
10:00~17:00

会場：東京ミッドタウン八重洲カンファレンス

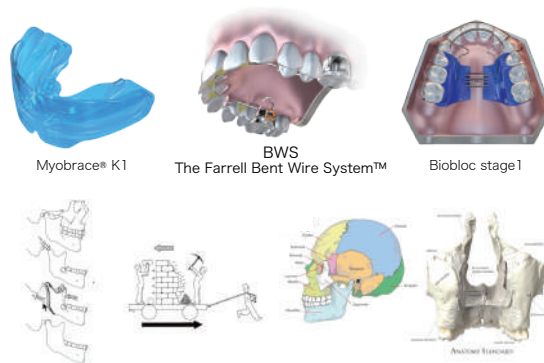
東京都中央区八重洲2丁目2-1
JR「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)
東京メトロ丸の内線「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)
東京メトロ銀座線「京橋」駅 徒歩3分

受講費：80,000円(税込み) ※昼食付

定員：150名



お申し込みはこちら



共催：株式会社オーティカ・プロモーション / 株式会社オーティカ・インターナショナル

お問い合わせ 株式会社オーティカ・プロモーション講習会事務局
TEL : 03-3353-3676 MAIL : seminar@orthika.jp